

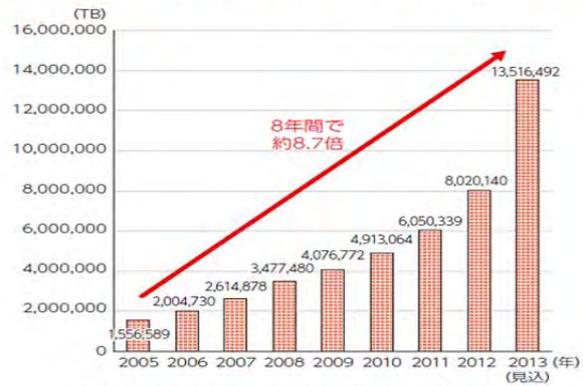
(参考資料)

1. 「気象データ」のデータ流通量 (総務省「情報通信白書(平成26年版)」)

国内企業へのアンケートから、情報種別ごとにデータの流通量を平成17年度から推計しています(総務省「ビッグデータ時代における情報量の計測に係わる調査研究」(平成26年))。

気象データの流通量もデータ種別として調査されており、2013年(平成25年)の流通量は、2005年(平成17年)から8年で約8.8倍に増加しています。調査対象となった情報種別(メディア別)の中では増加の割合が高いグループにあります。

図表3-1-2-4 データ流通量の推移(産業計)



(出典) 総務省「ビッグデータ時代における情報量の計測に係る調査研究」(平成26年)

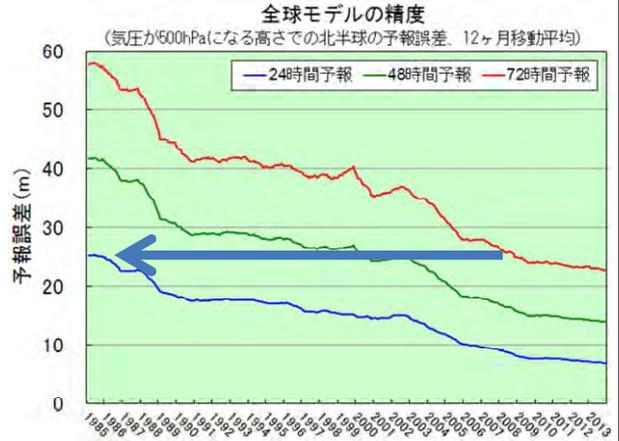
気象データの流通量

年 平成	2005 17	2006 18	2007 19	2008 20	2009 21	2010 22	2011 23	2012 24	2013 25
流通量(TB)	877	1102	1472	1958	2401	3120	4067	5826	7742
流通量(2005年=100)	100	126	168	223	274	356	464	664	882

2. 全球モデルの予報精度(気象庁HPより)

全球モデルの予報誤差は、年々小さくなっています。上空約5,000~6,000mの高度に相当する500hPaの高度の予報は、1980年代半ばの1日予報が現在の3日予報と同程度の誤差です。

また、台風の進路予報も、1990年代前半の3日予報より現在の5日予報の誤差が小さくなっています。この精度改善を背景として、2009年から台風の5日予報を開始しました。



※「情報提供業務(オンライン)」における利用者の動向について(その1)は賛助会員日よりNo.99に、(その2)はNo.101に、(その3)No.102は掲載しています。